



サメはどうして人間を食べるの

人食いザメ

サメが人をおそう事件が、ときどき起こります。どのサメも、人をおそうわけではありません。人をおそうのは、ホオジロザメ、イタチザメ、メジロザメ類、シュモクザメ類など30種ぐらいです。これらの種類は、日本の近海にもいます。ごく浅い所にまで、しん入してくる場合もありますので、夏の海水浴シーズンは注意が必要です。

サメの仲間は、肉食性で、小魚や動物性プランクトン、カニ、エビなどを食べるものもいれば、大型の魚をおそって食べる、ホオジロザメ、イタチザメ、などもいます。大型の魚をおそって食べる種類のサメは、まちがって、人をおそって食べることもあります。

サメよけ

サメは、けがをして流した血のにおいや、人間がおぼれてもがく物音などをかぎつけて、遠くからもやってきます。

日本でも、サメにおそわれた例がいくつかあります。オーストラリアでは、サメにおそわれることが多いため、海水浴場にサメかん視人を置いたり、海水浴場を金網で囲んで防衛しています。

サメのいる海に投げ出されたら

船のてんぷくなどで、サメの泳いでいる海中に投げ出されたら、サメのしゅうげきをさける決定的な方法はありません。ボートやいかだなどの板の上に乗って、海中に体を入れておかないことがいちばんです。（監修・杉浦 宏）

